

学籍番号

氏名

(番号、名前のない答案は採点いたしません)

以下括弧に適切な言葉、数字等を入れなさい。

図1は脳の1.()面、矢印の出血部位は2.()被殻(左右、どちら側?)である。

寛骨は腸骨、3.()、恥骨が結合したものである。

大胸筋は4.()が鎖骨、胸骨、肋骨、腹直筋鞘で

5.()は上腕骨の大結節稜である。

脊髄神経には筋を動かす6.()と痛みなどを感知する

7.()がある。

静脈には動脈といっしょに走る8.()と動脈を伴わない

9.()とがある。

鰓弓と固有の脳神経の関係は第1鰓弓が10.()神経、第2鰓弓が

11.()神経、第3鰓弓が12.()神経、第4鰓弓

が13.()神経である。

鎖骨下静脈穿刺の時、前斜角筋の後面を走る14.()や

15.()の損傷が重大な合併症であり、内頸静脈穿刺の時は呼吸

運動に重要な役割を果たす16.()神経の損傷が問題となる。

図2の矢印が示すのは17.()である。

精管は18.()と交叉し、膀胱の裏側に入り、かつ

19.()を貫き尿道に開口する。

子宮を骨盤腔に固定する装置で、子宮広間膜の基部に存在し、尿管や

20.()の通過路になっているのが21.()韧带で

ある。

仙骨神経叢は22.()筋の表面に存在し、その下縁を通り骨盤外

に出る。主な枝は上殿神経、下殿神経、23.()、24.()

()である。

図3で矢印Aは25.()、矢印Bは26.()で

ある。

外胚葉、内胚葉、中胚葉を27.()胚葉と呼び、すべて

28.()由来である。

図4は神経管誘導のプロセスの一つである。矢印はオーガナイザーの

29.()である。

胸鎖乳突筋は30.()動脈、31.()静

脈、迷走神経など重要な血管、神経を被う。

体壁の形成において、頭部ヒダから胸壁、上腹壁、33.()形成さ

れ、尾部ヒダからは34.()にくみこまれる尿膜、下腹壁、両

側ヒダから左右の側腹壁が形成される。

図5の腰椎のレントゲン写真で矢印Aは35.()、矢印Bは

36.()である。

図6で上の写真で触診している臓器は36.()、下の写真で触診し

ている臓器は37.()である。

図7で矢印は38.()である。

舌の分界溝は舌体と39.()を分ける。

肋骨弓(costal arch)は第7番目の肋骨から40.第()番目の肋骨で

形成される。

縦隔は41.()と第4、第5胸椎の椎間円板を含んだ面で

42.()と43.()に区分する。

内胸動脈は前斜角筋の内側で、44.()より分岐し、胸郭の

内壁に密着しつつ45.()と筋横隔動脈に枝分かれする。

図8のCT面は46.()縦隔下部を示している。

図9の頸部構造で矢印Aが示す筋肉は、47.()で、矢印Bが示す

神経は48.()である。

中縦隔の構造で、第2肋間レベルに右側から49.()静脈、上行大動

脈、50.()が並ぶ。

心臓を直接つむ膜が51.()でこれが臓側板に相当する。この

膜は大血管の起始部に離れ壁側板に移行し、52.()とな

る。これらの膜の間の空隙が53.()である。

心臓において心臓から起始する大動脈を包む箇所を54.()、

静脈を包む箇所を55.()という。これらの間に隙間を

56.()という。

図10で矢印Aが指す血管の名称は、57.()である。矢印B

が指す血管は58.()である。矢印Cが指す血管は59.

()である。

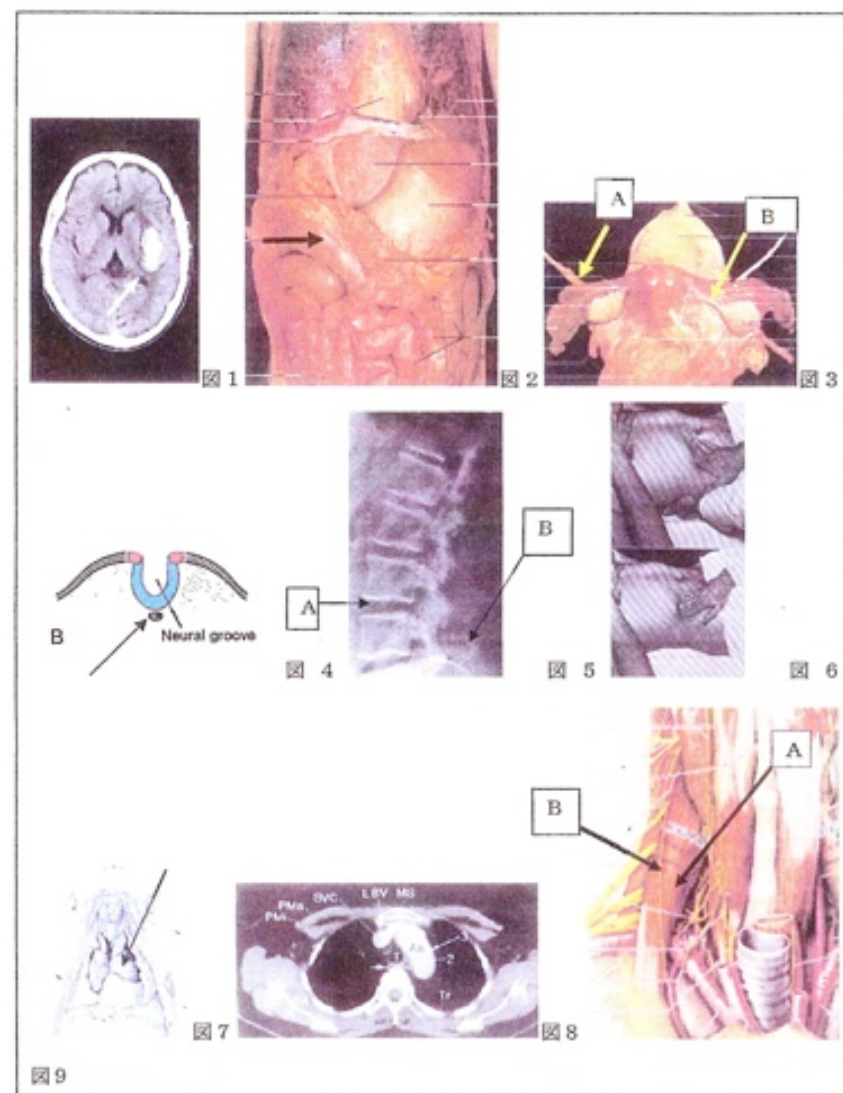
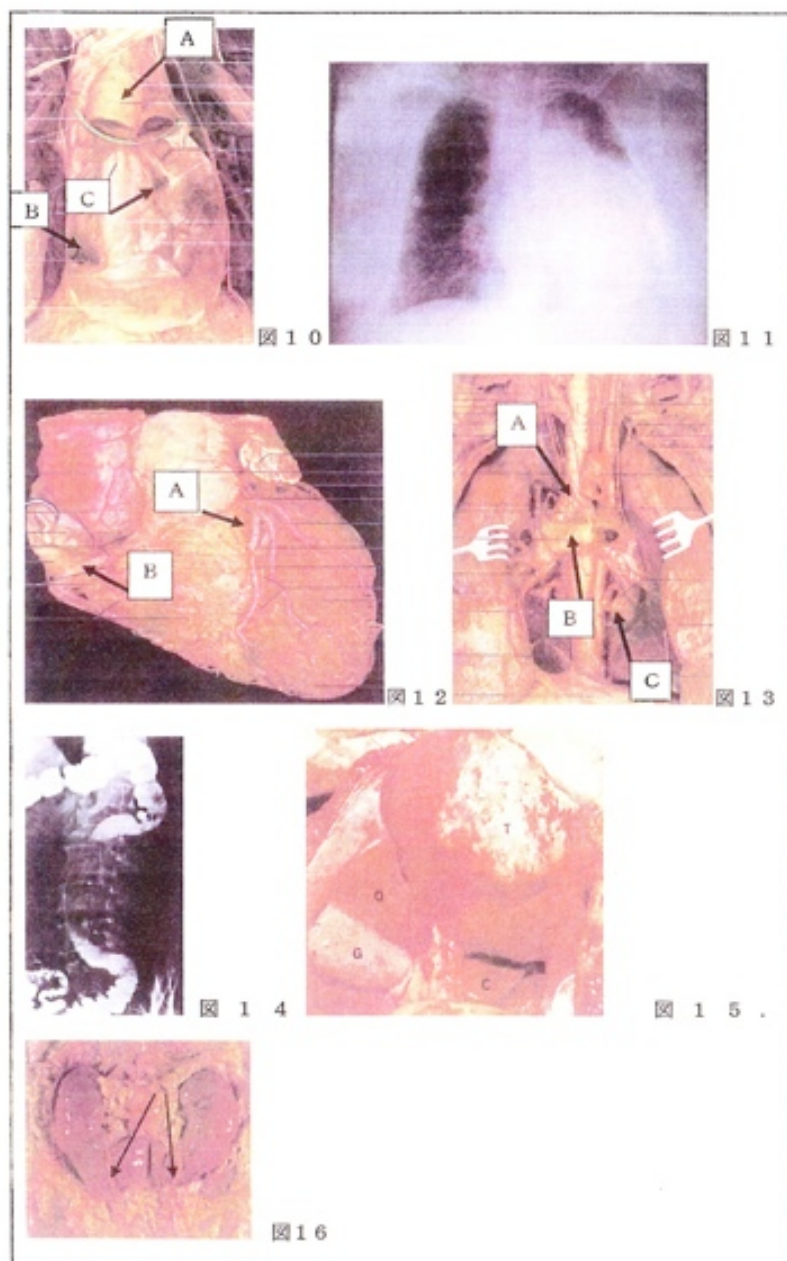
図11のレントゲン写真は60.()に液体が貯留した心タン

ポナーデを示している。

バルサルバ洞は61.()大動脈の起始部の3つの膨らみで、

それぞれ、62.()、63.()、
64.()である。
心房中隔の二次中隔は一次中隔の65.()側に形成される。
図12で矢印Aが指す動脈の名称は66.()である。矢印Bが指す動脈の名称は67.()である。
刺激伝導系の右脚は68.()縁柱の表層を走行する。
房室結節が存在する Koch の三角は69.()の付着部のライン、70.()開口部、Tendon of Todaro によって囲まれた領域である。
胸膜腔の両側下端の間隙で、外側を71.()といい、レントゲンでは横隔膜外側の深い切れ込みとして認識できる。内側は浅く72.()という。
この気管に対して後方に食道が密着しており、大動脈弓は気管に接しながら73.()主気管支を乗り越え、奇静脈は74.()主気管支を乗り越え上大静脈に入る。
右肺の中葉は外側の75. B (S) ()、内側の76. B (S) ()の二つの区域からなる。
図13で矢印Aは77. 気管 ()、矢印Bは77. ()肺動脈、矢印Cは78. ()下肺静脈を指す。
胎生期における初期の消化管は、79. ()腸、80. ()腸、81. ()腸に区分され、79. から肝臓や脾臓、81から膀胱なども形成される。
胃の幽門部は、解剖学的に82. ()、83. ()から成る。
大十二指腸乳頭は十二指腸の84. ()部に存在する。
上行結腸の上部(右結腸曲)は85. ()が近接し、その背側に86. ()がある。
図14の注腸造影で下行結腸を圧排している臓器は87. ()である。
Cantlie line は88. ()窩と89. ()静脈を結ぶ線で、肝臓表面では中肝静脈に沿う。
図15で肝臓腫瘍(T)は90. ()外側区域に存在する。
脾臓は91. ()、鉤状突起、頸部、体部、92. ()に分けられる。
消化器に分布する血管のうちで腹膜腔内の臓器に分布する動脈は93. ()、上腸間膜動脈、下腸間膜動脈である。
腰神経叢の中で第5腰椎の横突起の近くには分岐神経、大腿伸側に向かう

94. ()、内転筋に分布する95. ()神経がある。
横隔膜が正中弓状靭帯を通過する主な構造は、大動脈、リンパ液が流れる96. ()管、最後に上大静脈に流れ込む97. ()である。
図16は腎臓の奇形の一つで98. ()という。矢印は99. ()である。
女性の直腸と子宮とのスペースは男性に比べ深く、広く、直腸子宮窩、臨床では100. ()窩という。



組織 No.1

採点欄 (総計)

番号 _____ 氏名 _____
2枚目にも記名を忘れずに

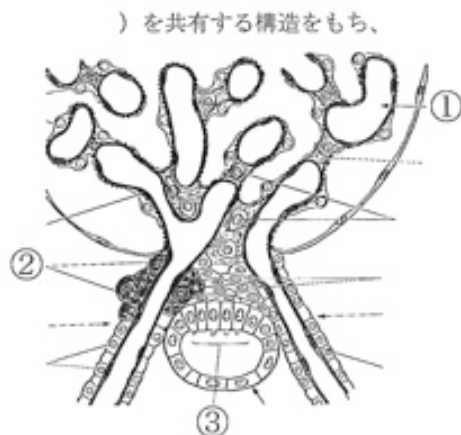
採点欄

- 1) 細胞小器官の () は、蛋白や脂質への糖鎖修飾を行う。
- 2) 発達した () は、細胞の蛋白合成の指標となる。
- 3) 器官の組織構造の基本となるのは、上皮組織、()、筋組織、神経組織である。
- 4) 細胞結合のうち、アクチンフィラメントをつなぐのは () である。
- 5) 骨単位は () を中心に形成される。
- 6) 骨のリモデリングは、破骨細胞と () の共同作業である。
- 7) 興奮収縮連関において、筋形質膜の興奮は () を介して筋小胞体に伝えられる。
- 8) 大動脈は () 型動脈であり、心拍動の圧力を吸収する。
- 9) 心筋細胞同士の結合部位を () という。
- 10) 気管の上皮は、多列 () である。
- 11) 気管支のうち、肺泡が出現するのは () である。
- 12) 肺泡壁を覆う () は、血液空気関門の構成に与る。
- 13) 終末細気管支などに多い () は、サーファクタントを分泌する。
- 14) 下図について

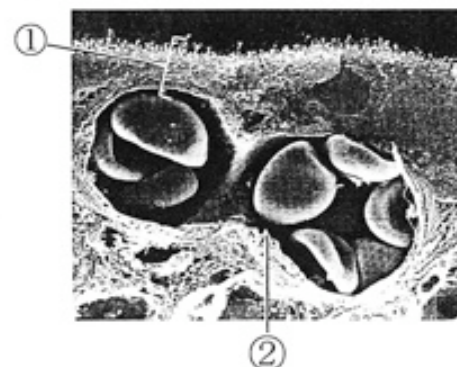
①は () である。
この壁は、足細胞と内皮細胞が () を共有する構造をもち、血液濾過バリアとして働く。

② () は、輸入細胞動脈中膜の平滑筋細胞が変化したもので、レニンを分泌する。

③ () は、遠位尿細管の上皮が特殊化したものである。



- 15) リンパ節の傍皮質は胸腺依存領域であり、() 静脈が豊富である。
- 16) 2次リンパ小節の () は、Bリンパ球の増殖・分化の場である。
- 17) 脾臓の開放循環系では、組織中に出た赤血球は毛細血管、すなわち () の壁を通り抜けて循環にもどる。
- 18) 胸腺皮質の毛細血管は () が取り巻き、血液胸腺関門を形成する。
- 19) 胸腺皮質では、“正の選択”により () を認識するリンパ球が生き残る。
- 20) 赤色骨髄で発生・分化する血球は、リンパ球系と () 系に大別される。
- 21) () は血管外へ遊走して、マクロファージになる。
- 22) () は皮膚の樹状細胞であり、侵入異物を捕食した後、抗原提示細胞になる。
- 23) 精子発生は () の上皮で起る。
- 24) () 細胞は血液精巣関門を形成し、免疫系から精子発生を保護する。
- 25) () は精子の機能的成熟に与り、その上皮は不動毛を持つ。
- 26) グラフ卵胞でエストロゲンを産生する顆粒膜細胞や内卵胞膜細胞は、排卵後には () 細胞に変化する。
- 27) 下図は成熟した胎盤の電顕写真である。
①の主な構成は、母体血に接する () と②の内皮細胞および基底膜である。
②は () の中を走る毛細血管である。
①は () として働き、選択的に物質を透過させる。



採点欄

- 28) 右図は消化器系臓器の組織切片の模式図である。
この臓器は何か? ()

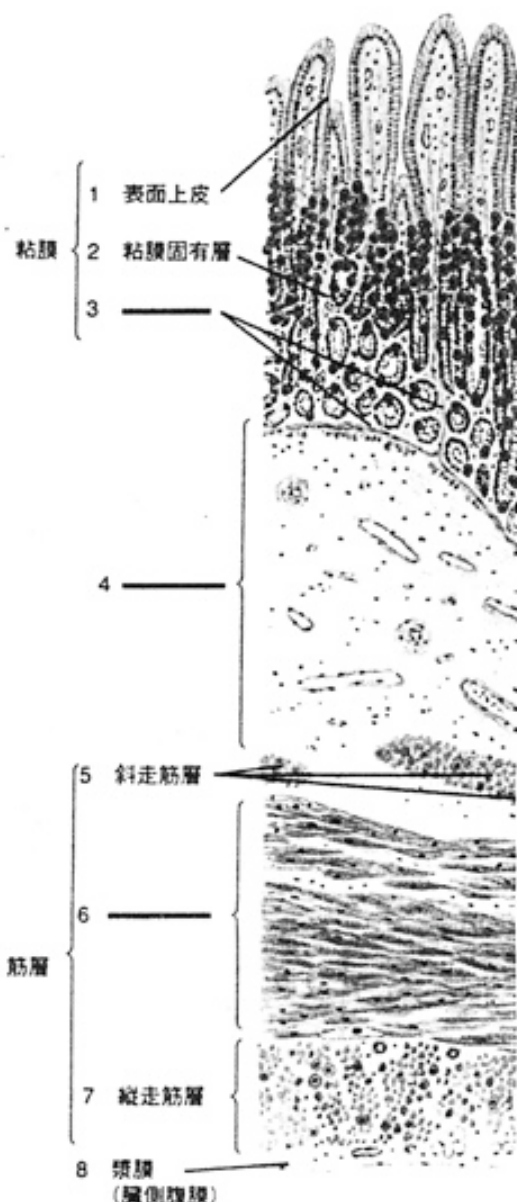
右図の3、4、6は何か?

- 3 ()
4 ()
6 ()

右図の粘膜上皮を構成する細胞のうち、深部に多く、
HE染色で青く染まる細胞は () である。

- 29) 肝臓の基本構造のうち、小葉間静脈を中心にした
三角形は () と呼ばれる。

- 30) 唾液腺の粘液性腺房の外側に張り付いている細胞は
二種類確認出来る。一つは漿液性半月であるが、
もう一つは、 () である。



- 31) 腺性下垂体は () を介して視床下部の支配を受ける。
このシステムでは、上下垂体動脈が正中隆起に () をつくり、
視床下部からの調節ホルモンを受けた後、腺性下垂体に分布する。

- 32) 甲状腺 () は甲状腺ホルモンを分泌する。
() は血中 () 濃度の上昇に反応して、カルシトニン
を分泌する。

- 33) () 細胞は糖質コルチコイドを分泌する。これは蛋白合成抑制、
糖新生、抗炎症作用に関与する重要なホルモンである。

- 34) 膵臓内分泌部は () と呼ばれる。主要な分泌産物は、
() が分泌する () である。このホルモンは、細胞の
グルコース取り込みを促進し、血液グルコース濃度を低下させる。

採点欄